

発議第8号「旧統一協会」と政治家の癒着を究明し、決別を求める意見書について反対の立場で討論いたします。

宗教と政治との関係という側面があると同時に、外国勢力が我が国の政策や政治にどの程度影響を与えてきたかという観点からの検証が、一番重要で必要だと思っております。

統一協会は韓国を発祥とする宗教団体でありますけれども、半島との関係とか、あるいは家族間といったようなものに対して、そういった勢力がどういった影響を与えたのか、どうかという点が大事な部分であると思えます。

いかなる形であれ、国家の重要な決定において外国の勢力が影響を及ぼし得るという状態は健全ではないと思っておりますし、国会議員は外国からの献金を禁じられていますので、そういう観点からすると反日的な教義を掲げるそういった団体がなぜ日本の政策に関与しどのような影響を及ぼしたのかということについては、統一協会と自民党との関係も含めて検証すべきで点では必要と考えております。

フランスでは反セクト法という法律が整備されており、宗教団体に限らず政治に影響を及ぼそうとするロビー活動を登録制にして事後的に透明性を持ってチェックできる、そういった仕組みが導入されておりますので、そのような制度や仕組みの設計を構築していく論議や協議が本来は必要不可欠であると考えます。

しかしながら、私としてはこのような観点から宗教法人と国政政党のつながりというだけの問題ではなく、外国勢力などと国政政党や所属議員のつながりが、一番の問題であり、自民党以外の国政政党においても、外国勢力などとのつながりがあることも懸念されていることを鑑みても、自民党だけではなく、この際、全ての国政政党や議員に対して関係性の究明をすることと、今後の対策に係る制度設計をすることが最も重要との考えから、この発議の内容に関しては反対といたします。